

積雪前の除草剤散布で斑点米が激減！

1 はじめに

これまでの斑点米の防除は、水稻の生育期間中にカメムシ類の住み家となる畦畔雑草の除草や水田内の殺虫剤散布によるものでした。しかし、これらの作業は、田植えなどの作業と競合したり、梅雨や高温の時期と重なり、重労働となっています。そこで、斑点米を減らすだけでなく、水稻生育期間中の防除作業も軽減できる新たな防除技術を開発しました。

2 技術の効果

- ①斑点米の発生抑制
- ②防除コストの低減
- ③防除作業の分散と省力化
- ④農薬の使用回数の削減などの効果

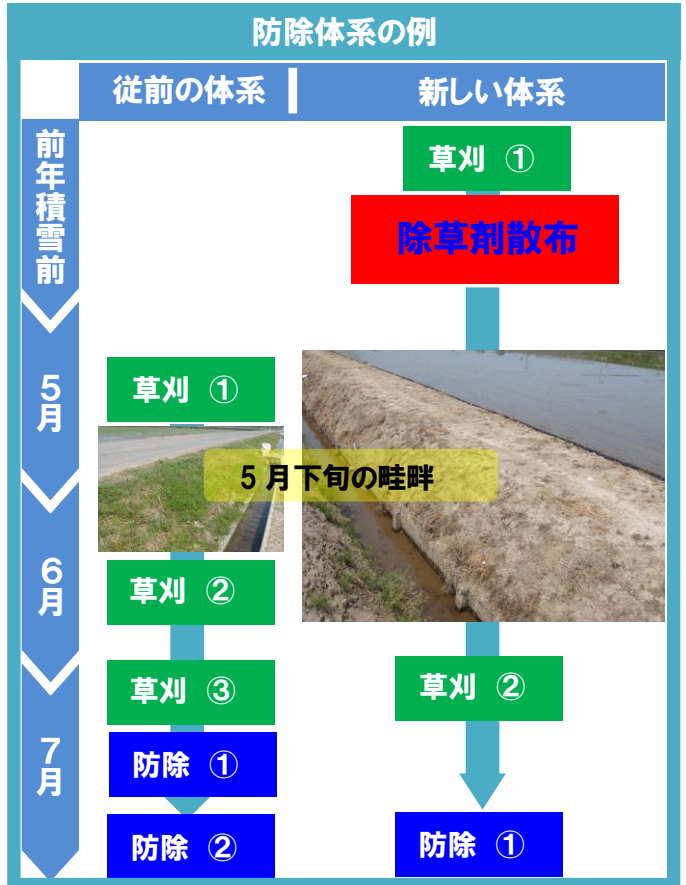
慣行防除体系(除草作業3回+殺虫剤散布2回)の防除コストが10アール当たり約4,500円に比べ、この新防除体系は、10アール当たり約3,000円と、コストが約30%削減できます。

3 薬剤散布の方法

- ①薬剤名：DBN4.5%粒剤
- ②散布時期：11月下旬～積雪前
- ③散布量：8kg/10a



ムラ散布のないよう均一に散布
連続圃場で広域的に散布すると効果大



4 積雪前のDBN粒剤散布によるカメムシ類の発生抑制効果

積雪前にDBN粒剤を散布した畦畔では、6月下旬に雑草が再生してきても、カスミカメムシ類(第1世代)発生がみられず、高い発生抑制効果があります(表)。

表 DBN粒剤散布とカメムシ類の発生調査結果(2012 福井農試)

調査地	DBN 剤散布		カスミカメムシ類(頭)	
	12月上旬	成虫	幼虫	
N地区	有	0	0	
	無	157	0	

調査月日：平成24年6月25日

調査方法：20回往復すくい取り調査

5 積雪前のDBN粒剤散布を基幹とした防除体系事例の斑点米の発生と防除コスト

防除方法	畦畔除草(草刈り)			水田での殺虫剤散布		斑点米発生率 (%)	防除コスト (円/10a)
	5月中旬	6月中旬	7月上旬	穂揃期	傾穂期		
新しい体系	—	—	○	—	○	0.073	3,000
従来の体系	○	○	○	○	○	0.084	4,500
無防除	—	—	—	—	—	0.349	—

(農業試験場 生産環境部 高岡誠一)